

東京都新宿区北新宿1-8-16
 東京土建一般労働組合
 電話03 (5332) 3971 (代表)
 FAX03 (5332) 3972
 発行人・編集人
 三木 勉

印刷部数11万2700部
 (購読料は組合費のなかに含まれています)
 (年間購読料 千八百円)
 定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

フクシマとつながろう

原発事故で奪われた暮らしと人権を取り戻すため、フクシマに連帯する「9・17さようなら原発全国集会」を開催します。「日時と場所」9月17日(月・祝)12時30分、代々木公園B地区

拡大月間を成功させよう

全都活動者会議 & 拡大決起集会

仲間に頼られる組合へ 組織増勢・強化へ奮闘しよう

7月29日、東京土建はTKPガーデンシティ品川で「秋の大運動・拡大月間成功に向けた全都活動者会議&拡大決起集会」を開催しました。全支部から473人が参加して、秋の拡大月間達成へ意思統一し、決意を固めました。



473人を集めて成功させた活動者会議

活動者会議の冒頭、挨拶に立った松丸一雄委員長は「月間目標・年間目標達成と、実増を目指して全支部一丸となつて奮闘をお願いしたい。仲間の声に答えられる、頼りになる組合として組織増勢と組織強化に向けて奮闘をお願いします」と訴えました。

「日本社会の課題にどう立ち向かうか」と題して講演した東京大学大学院の本田由紀教授は若者の貧困、教育格差などの問題を示し、諸問題の解決に向けた新しい社会モデルを提示しました。

白滝書記長の基調報告で、秋の運動の基本方向と重点課題を確認。中村組織部長

中にも東京土建の組合員の存在が確認されています。事故の翌日、白滝書記長、中村(修)・唐澤専任常任中

の秋の拡大月間方針で仲間と団結し構えと決意を固める8月の準備行動を提起し、秋の拡大月間の意義と行動スロガン、月間の行動重点などを提起しました。また本部特別報告として、小坂剛貴対部長が丸の内3-2計画現場での組合の活動を紹介しました。

支部報告は江戸川支部と三鷹武蔵野支部が行ない、川島裕生江戸川支部組織部長が、秋の拡大月間では日中の事業所訪問行動と夜間では群会議訪問・群役員訪問を通して進める組織強化と、宣伝力の強化を重点に取り組みと報告。矢内雅之三鷹武蔵野支部書記長は、分会組織強化に向けた交流と、事業所組合員を協力し合える仲間として呼び込んで行くことを重点に、準備活動を進めると報告しました。

当日に労働者が退避したコンビニの駐車場は消防関係、警察関係の車両で埋め尽くされていました。

オソ、東京土建)として事故の原因究明、施工体制、労働者性に関する申し入れを行なっていました。元請の安藤ハザマ

は、中村組織部長が「幹部役員、書記局、分会・群の仲間、青年部、主婦の会、シニア友の会が丸一となって秋の運動の大成へ意思統一ができればと思えます」と拡大月間成功への訴えを行いました。続いてダルマの目入れを行いました、会場は大きな拍手に包まれました。

第2部の拡大決起集会では、中村組織部長が「幹部役員、書記局、分会・群の仲間、青年部、主婦の会、シニア友の会が丸一となって秋の運動の大成へ意思統一ができればと思えます」と拡大月間成功への訴えを行いました。続いてダルマの目入れを行いました、会場は大きな拍手に包まれました。

は、過去に別の工事現場においても同様の事故が発生させていることから、事故の再発防止に向けて厳しく指導することと、あわせて、元請に対し、遺族への万全の補償をすべく指導を求めました。八王子



元気いっぱい!の渋谷支部

書記次長、松尾慎一郎社保対部長、徳森岳男任対部長と、東京地評から萩原淳議長、井手口行夫副議長、松森陽一事務局長、井澤智常任幹事が出席し、奈良書記次長と萩原議長から挨拶を受けました。

シニア友の会、PAL、若手書記の決意表明に続いて、「共に駆け抜けろー嬉し涙も悔し涙も仲間の涙はたからもの」(北)、「今こそPower of one! 3000人の山を越え、轍さえない道をさらに進もう」(渋谷)、「狛江半端ないって!」(狛江)、「仲間のつながりで強い組織へ、オール清瀬久留米で50周年を盛り上げよう!!」(清瀬久留米)など、全支部が特徴あるスローガンでアピールし、決意表明をしました。

元請へ指導を求めろ

唐木田火災事故で5人死亡

7月26日発生した、安藤ハザマが元請の「多摩テクノロジールディング」(多摩市唐木田)の火災では、約320人の現場従事者のうち、43人が被災、そのうち5人が亡くなりました。亡くなった方では3人が全建総連の組合員(東京土建足立支部、建設ユニオン、神奈川県連)であることが分かっています。また負傷者の

執らで火災現場へ出向き、亡くなられた方へ花を手向け、ご冥福を祈りました。建物を覆うシートは焼け焦げ、出火

8月8日には、八王子労働基準監督署に対し、全建総連関東地方協議会(東京都連、川崎中部建設労組、建設ユニ

向けて厳しく指導することと、あわせて、元請に対し、遺族への万全の補償をすべく指導を求めました。八王子

は、過去に別の工事現場においても同様の事故が発生させていることから、事故の再発防止に向けて厳しく指導することと、あわせて、元請に対し、遺族への万全の補償をすべく指導を求めました。八王子

労働基準監督署は「警察・消防、労働局が協力して調査中であり、監督署が単独で公表できない事が多々ある」としながらも、「八王子監督署に相談してほしい。労災申請時には不明な点は空白でも受け付ける」と回答しました。

は、過去に別の工事現場においても同様の事故が発生させていることから、事故の再発防止に向けて厳しく指導することと、あわせて、元請に対し、遺族への万全の補償をすべく指導を求めました。八王子

は、過去に別の工事現場においても同様の事故が発生させていることから、事故の再発防止に向けて厳しく指導することと、あわせて、元請に対し、遺族への万全の補償をすべく指導を求めました。八王子

は、過去に別の工事現場においても同様の事故が発生させていることから、事故の再発防止に向けて厳しく指導することと、あわせて、元請に対し、遺族への万全の補償をすべく指導を求めました。八王子

朝やけ

■平安時代に権勢を振るった藤原道長は糖尿病だったと、NHKBBSプレミア

「口が渴きやたらと水を飲む」など、糖尿病の症状が疑われる記述があり、50歳くらいからは目がほとんど見えなかったようだ。道長は日中から深夜に及ぶ会議、頻繁な宿直などの不規則な生活が続く、あちこちの臓器の体内時計が狂い、糖尿病を引き起こしたのだという。

■夏の夜明けは早い。だからといって急に明日から1~2時間早く起きて仕事を始めたりしたら、体内時計が狂うのではないかと。一年のなかで日の出も日没もゆっくりと変化し、私たちはこれに適応してきた。急激な生活リズムの変更は健康へ害を及ぼすだろう。

■東京五輪を成功させようと、サマータイム導入が検討されている。パラリンピックも含めた約1カ月のために、国民の健康を犠牲にするつもりなのだろうか。EUではサマータイムはデメリットしかないと言われている。議論が始まっている。健康への影響の他に、夜間のエネルギー消費を減らす効果も見られず、レジャー活動も活性化しなかったと。五輪には健康への関心を高める意義があるというが、国民の健康が損なわれては意味がない。